

鶴岡八幡宮



しくみ一覧

(緑線)

- 江島神社辺津宮 7.54km - 鶴岡八幡宮 - 江嶋神社中津宮 7.54km
- - 白旗神社 7.54km
- - 小柴熊野神社 7.54km

(赤線)

- 江島神社奥津宮 7.94km - 鶴岡八幡宮 - 冨塚八幡宮 7.94km
- - 成就院 7.94km
- - 妙蓮寺 7.94km

しくみ詳細

- 江島神社辺津宮 7.54km - 鶴岡八幡宮 - 江嶋神社中津宮 7.54km (緑線)

左極

江島神社辺津宮

祭神 田寸津比賣命。土御門天皇 建永元年(1206年)、時の将軍・源實朝が創建。延寶三年(1675年)に再建。

中道角

鶴岡八幡宮

祭神 応神天皇(おうじんてんのう) 比売神(ひめがみ) 神功皇后(じんぐうこうごう) 当宮は康平6年(1063)源頼義が奥州を平定して鎌倉に帰り、源氏の氏神として出陣に際してご加護を祈願した京都の石



清水八幡宮を由比ヶ浜辺にお祀りしたのが始まりです。その後、源氏再興の旗上げをした源頼朝公は、治承4年(1180)鎌倉に入るや直ちに御神意を伺って由比ヶ浜辺の八幡宮を現在の地にお遷しし、建久2年(1191)には鎌倉幕府の宗社にふさわしく上下両宮の現在の姿に整え、鎌倉の町づくりの中心としました。神奈川県鎌倉市雪ノ下2丁目1-3 1



右極

江の島中津宮

市寸島比賣命をお祀りしている。中津宮は、もとの上之宮で、文徳天皇仁壽三年(853年)に慈覚大師が創建。元禄二年(1689年)に、五代将軍・徳川綱吉により、本殿・幣殿・拝殿からなる権現造りの社殿が再建された。

江島神社について

かつては、島全体が神仏混淆の霊地として信仰を集めた。江島神社は、552年、欽明天皇の勅命で、島の岩屋に宮を建てたのがはじまりとされる。海運、漁業、交通の守護神として祀られ、御窟(おんいわや)を本宮、奥津宮を本宮御旅所、中津宮を上之宮、辺津宮を下之宮と呼んでいた。文武天皇四年(700年)に、役小角が、江の島の御窟に参籠して神感を受け、修験の霊場を開き、これに続き、泰澄、道智、弘法、安然、日蓮などの名僧が、御窟で次々に行を練り、高いご神徳を仰いだと伝えられている。そして、弘仁五年(814年)に空海が岩屋本宮を、仁壽三年(853年)に慈覚大師が上之宮(中津宮)を創建。1182年(寿永元年)、源頼朝が文覚に命じて、奥州平泉の藤原秀衡調伏祈願のために弁財天を勧請したときをその創建とする説もある。建永元年(1206年)に慈覚上人良真が源實朝に願って下之宮(辺津宮)を創建。その後、慶安二年(1649年)に仏教との習合により、江島神社は金亀山与願寺と号した。明治の神仏分離によって「江島神社」と呼ばれるようになった。

■江島神社辺津宮 7.54km - 鶴岡八幡宮 - 白旗神社 7.54km (緑線)

左極 江島神社辺津宮 ※上記参照

中道角 鶴岡八幡宮 ※上記参照

右極

白旗神社

創立年代は不詳。白王山般若院莊厳寺を別当とした神社で相模国一宮の寒川神社の祭神を祀り寒川神社と称していた。文治5年(1189年)、閏4月30日に奥州平泉の衣川館で自害した義経の首級が鎌倉へ送られ、6月13日腰越で首実検が行われた後、この神社の付近に義経と弁慶の首級が葬られたという伝承と共に伝・源義経首洗井戸や弁慶塚が残され、宝治3年(1249年)に源義経を合祀したとしている。社殿の真南の方角に源義経首塚跡および伝・源義経首洗井戸があり、その向こうに江島神社(旧・金亀山与願寺)が位置する。御伽草子の『御曹子島渡』(室町時代)では義経は鬼の大王の娘と結婚しているが実は江の島の弁才天であった。江島神社に伝わる『江島弁才天縁起絵巻』(2巻、江戸時代)も義経を主人公とした『御曹子島渡』の系統の御伽草子となっている。神奈川県藤沢市藤沢2丁目2-4-7

■江島神社辺津宮 7.54km - 鶴岡八幡宮 - 小柴熊野神社 7.54km (緑線)

左極 江島神社辺津宮 ※上記参照

中道角 鶴岡八幡宮 ※上記参照

右極

小柴熊野神社

横浜市金沢区柴町に鎮座する熊野神社は熊野に坐す三社を奉斎する熊野三社宮で熊野三神の本地仏（阿弥陀如来（本宮）と薬師如来（速玉）と千手観音（那智））が祀られている。由緒や創立年代は不詳である。祭神は熊野櫛御気野神、伊弉册神、速魂男神である。本地仏が南北朝まで遡るようであるから、その頃の創建であろうか。古来、柴岬大権現と称してきた。

廃仏毀釈がなされず、神仏習合のまま残った。明治維新まで真言宗宝蔵院が別当寺であった。柴町にあるのだが、鎮座している権現山の海側は小柴切通と呼ばれ、小柴漁港などもあり、小柴熊野神社で通っているようだ。かつては称名寺から宝蔵院へは小柴切通を通り、柴岬大権現が鎮座する権現山を回っていたが、今ではわずか 10m 足らずの柴隧道が権現山からの峰を貫いているために、熊野神社山裾にある庚申塔は忘れ去られているようだ。参拝者があったが、階段下で手を合わせていた。

境内社・末社として山下に水神社と稲荷社が、階段の中腹に不動明王が、山上に秋葉三尺坊大権現が祀られている。神奈川県横浜市金沢区柴町

しくみ

- 江島神社奥津宮 7.94km - 鶴岡八幡宮 - 富塚八幡宮 7.94km (赤線)
- - 成就院 7.94km (赤線)
- - 妙蓮寺 7.94km (赤線)

江島神社奥津宮 ※上記参照

鶴岡八幡宮 ※上記参照

富塚八幡宮

祭神 譽田別命（ほんだわけのみこと・応神天皇）富属彦命（とつぎひこのみこと）

平安時代、奥州「前九年の役」平定のために、源頼義、義家親子が奥州に下る途中、当地に露營した折り、夢に交神天皇及び富属彦命の神託を蒙り、其の加護により戦功を立てることが出来たのに感謝して、延文四年（西暦 1072 年）社殿を遣り、両祭神を勧請しました。山頂の古墳は古墳時代の戸塚の豪族富属彦命の墳墓と伝えられ、これを富塚と称し、戸塚の地名発生となったと伝承されています。横浜市戸塚区戸塚町 3 8 2 7

成就院

この付近は、戦国時代小田原北条氏の武将間宮豊前守康俊が、父祖の代から受継いた笹下城跡である。

「成就院」は、山号は梅花山と呼び、宗派は浄土真宗、本尊は阿弥陀如来像、山門は前述間宮氏の陣屋を廃止した時、当院に移築した。この門前に詩人大野林火氏の「猛り鴟（もず）松籟（しょうらい）に今鎮（しず）まりぬ」の鎮魂の句碑が建っている。裏手墓地には元治元年（一八六四）鎌倉で英国士官を殺害し処刑された間宮一の墓があり、境内には横浜市指定名木古木の樹齢七〇〇年の「片身の榎（ま



き)」がその古さを物語っている。横浜市港南区笹下4丁目11-5

妙蓮寺

妙蓮寺は、神奈川区新明町にあった長光山大経院妙仙寺と、当地にあった浄寿山蓮光寺が明治41年合併開山、其々の寺号を一字ずつ取り妙蓮寺と号したといひます。長光山大経院妙仙寺は、池上本門寺第三世大経阿闍梨日輪が観應元年（1350）に創建、江戸時代には寺領5石の御朱印状を拝領したという名刹でしたが、横浜鉄道臨港線引き込みに際して移転、移転先の浄寿山蓮光寺と合寺したといひます。合祀した妙仙寺に伊豆国から移り住んだ一族が関係している。横浜市磯子区田中1丁目21トミ

備考

古いしくみで近畿・山形と繋がっている江の島の気を利用するため、鎌倉をとり囲むよう同距離に神社仏閣を配置し、鶴岡八幡宮に集め、鎌倉を護るしくみといえる。探せばもっとたくさんのしくみがあるはず。大江広元の仕事。戸塚は富塚すなわち出雲富族の一つの拠点だったのでは。1号線が富塚八幡宮から藤沢市の白旗神社に繋がり、白旗神社から江の島は467号線、そして路線も繋がっているのも興味深い。

